



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009



ガバナーメッセージ

“新世代にロータリーの心を”

国際ロータリー第2710地区
ガバナー

諏訪 昭登

新世代のための月間によせて

「各ロータリアンは青少年の模範」(Every Rotarian an Example to Youth) の標語は、30才までの若い人の育成を支援する全てのロータリー活動に焦点をあてるための言葉です。

新世代のためのRI常設プログラム

- ・ インターアクト
- ・ ローターアクト
- ・ ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)
- ・ ロータリー青少年交換

ロータリーは、倫理運動として倫理道徳を守る人を育てることに本質があり、新世代を育てるためには先ずロータリアン自身が自己研鑽をしなければなりません。私も参加した国際協議会の会場入口には、Enter to Learn (入って学ぶ)、Go Forth to Serve (出でて奉仕せよ)とあり、ロータリーの会合では常に心を磨き、去る時には奉仕の実践をということでした。新世代のための奉仕は、次世代をになう人達にロータリーの心を投影しようとするものであって、決して資金や援助をすることが中心となってはなりません。いわゆる新世代の心を育てることを第一義としてこれにあたるのが大切です。

実際に新世代のための奉仕は「共にする奉仕」がよく行われます。その場合にはただ漫然と一緒に清掃奉仕などをやるのではなく、ロータリアンが若い人達に語りかけることや、真摯な一挙手一投足が相手の心に伝わるのが即ち、「各ロータリアンは青少年の模範」の意義でありましょう。しかしながら青少年の心を育てるには、ロータリアンと相手とのコミュニケーションが大切であり、それが無くてはお互いに理解しにくく、目的が果たせないわけです。確かにロータリアンと相手との年齢差は大きいので価値感、人生観には大きな隔りがあり、コミュニケーションを上手に取るには難しさがあります。教育環境の変化により、従来のように教師や親の権威で子供達の意識がコントロール出来にくくなっております。そのような状況が青少年とロータリアンとの間においても顕著に表われるわけで特

に注意すべき点です。どのように対処すべきかについて大きな迷いがあることをふまえて我々ロータリアンは、立場や年齢を越えて適用する考え方、即ち老熟し老成したからこそ知り得た万古不易なものの考え方を教えて行くことが大切であります。ロータリーの綱領はロータリーとは何かについて簡明直截に記されたもので、我々が最も理解、遵守すべきものなのに、最近これを読まず、知らずの人達が増えたように思われます。我々は日々、この綱領を想起して奉仕の心を実践し、新世代奉仕の実践においても適用しなければ効果があり得ないことです。新世代プログラムに参加するロータリアンは極く一部の人であり、特にその資質が問われるところです。ロータリーは綱領において新世代奉仕の実践を要請しており、その第3項でロータリアン全てがその個人生活、事業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用することとあります。家庭生活はじめ、全ての生活局面に奉仕の心を適用することがロータリアンの責務であります。ロータリアンはまた、家庭生活での父親としての在り方や母親の役割の大きさなどを熟考し、奉仕の心の実践をすることが新世代奉仕の出発点であると言えます。弱者救済から発想された奉仕の実践は、新世代奉仕についても当然最重要項目として強調すべきものとされているわけです。新世代のために思いをめぐらせ、意欲をたかめることは、強調月間だけの問題ではなく通年、そして永遠のテーマとして我々の胸中に燃えていなければなりません。新世代の人達にロータリーの心を的確に伝えて行くことが我々現在のロータリアンの最重要課題であります。

“ロータリーは私の少年時代のニューイングランドの人々の特性であった寛容と善意と奉仕の精神から生まれたものであり、私は、その精神のうち、自分の中にあるものを、すべて、自分なりに他の人々に伝えようとしてきました。”

P. ハリス (ロータリーへの私の道)